

社会福祉法は、「社会福祉法人は、厚生労働省令で定める基準に従い、会計処理を行わなければならない。」と規定しています（第45条の23）。この厚生労働省令が「**会計基準省令**」です。

▶このテキストの7頁末尾にも記載しています。

会計基準省令では、B/S作成の目的を次のように書いています。

会計基準省令

（第3章 計算関係書類）

第4節 貸借対照表

（貸借対照表の内容）

第25条 貸借対照表は、当該会計年度末現在における全ての資産、負債及び純資産の状態を明瞭に表示するものでなければならない。

練習問題1 B/S科目を分類する

次の科目は、それぞれB/S（貸借対照表）のどの区分に分類されるでしょうか。適切と思われる区分に○を付けてください。

【解答欄】

	科 目	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債	純資産
①	建 物					
②	現 金 預 金					
③	短 期 運 営 資 金 借 入 金					
④	立 替 金					
⑤	事 業 未 払 金					
⑥	事 業 未 収 金					
⑦	設 備 資 金 借 入 金 (1年以内返済予定のものはありません)					
⑧	土 地					
⑨	短 期 貸 付 金					
⑩	基 本 金					
⑪	器 具 及 び 備 品					
⑫	仮 払 金					
⑬	車 輜 運 搬 具					
⑭	貯 蔵 品					
⑮	長 期 運 営 資 金 借 入 金 (1年以内返済予定のものはありません)					

練習問題2 科目及びその残高から貸借対照表を作成する

次の科目及びその残高から【解答欄】のB/S（貸借対照表）を完成させてください。なお、設備資金借入金で1年以内に返済する予定のものはありません。

建物（基本財産）	500	仮払金	5
現金預金	195	器具及び備品	250
短期運営資金借入金	250	土地（その他の固定資産）	700
建物（その他の固定資産）	150	立替金	5
事業未収金	160	事業未払金	50
貯蔵品	15	短期貸付金	20
土地（基本財産）	2,000	設備資金借入金	1,150

【解答欄】

B/S（貸借対照表）

資産の部		負債の部	
流動資産	400	流動負債	300
()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	固定負債	1,150
()	()	()	()
()	()	負債の部合計	1,450
()	()	純資産の部	
固定資産	3,600	基本金	2,200
基本財産	2,500	国庫補助金等特別積立金	200
()	()	次期繰越活動増減差額	()
()	()	純資産の部合計	()
その他の固定資産	1,100	負債・純資産の部合計	()
()	()		
()	()		
()	()		
資産の部合計	4,000		

ヒント1 「負債・純資産の部合計」は「資産の部合計」と同じ金額になるはずです。

ヒント2 「次期繰越活動増減差額」の金額は、「純資産の部合計」から逆算して求めます。

支払資金の残高は、その法人の支払能力を示すと同時に、措置費等として社会福祉法人に入ってきた資金の残高でもあります。そのような意味からも、社会福祉法人の会計では、支払資金の増減とその残高を管理することが重要とされています。

他方、社会福祉法人が存続・成長を続けて行くためには、純資産を保持し、増やしてゆく必要があります。もし、純資産が減少してゆき、マイナスになると…、保有している全ての資産を支払に充てても、全ての借金を支払えないこととなります。つまり、「倒産」に至ります。

このようなことから、「純資産」の増減とその残高を管理することも、とても大切なことです。

▶措置費等の「等」には、例えば、保育所の委託費がありません。

練習問題3 B/Sを作成して支払資金残高を求める(1)

次の科目及びその残高から、【解答欄】の括弧()内に勘定科目及び金額を記入してB/Sを完成し、支払資金と純資産の残高を算出してください。

なお、設備資金借入金で1年以内に返済する予定のものはありません。

①	建	物	1,000	⑤	事業未払金	480	⑨	短期貸付金	50
②	現金預金		1,450	⑥	事業未収金	170	⑩	基本金	3,500
③	短期運営資金借入金		820	⑦	設備資金借入金	900	⑪	器具及び備品	300
④	立替金		10	⑧	土地	3,000	⑫	仮払金	20

【解答欄】

B/S

流動資産	()	()	流動負債	()	()	
	()	()		()	()	
	()	()		流動負債合計		()
	()	()		固定負債	()	()
	()	()			固定負債合計	
流動資産合計		1,700	負債合計		()	
固定資産	()	()	純資産	()	()	
	()	()		次期繰越活動増減差額	()	
	()	()		純資産合計		()
	固定資産合計		()	負債・純資産合計		()
資産合計		6,000	支払資金残高		()	


ヒント1 「次期繰越活動増減差額」は、逆算して最後に求めます。
(純資産=資産-負債です!!)

ヒント2 支払資金残高は「Cashとその仲間(流動資産) - Cashのマイナス(流動負債)」です。

練習問題4 取引によるB/Sの変化と純資産・支払資金の増減

(1) 取引前B/Sに、次の取引①が発生した結果、B/Sは取引①後B/Sのように変化しました。

取引① 発生した介護保険報酬600を未収計上した。

取引前B/S			取引①後B/S	
流動資産 2,000	流動負債 300	 取引① 介護報酬 600計上	流動資産 2,600 (600増加)	流動負債 300 (増減なし)
	固定負債 3,000			固定負債 3,000 (増減なし)
固定資産 3,000	純資産 1,700		固定資産 3,000 (増減なし)	純資産 2,300 (600増加)

上の取引後B/Sに続いて、次の取引②から取引④によってB/Sはどのように変動しますか。【解答欄】の各B/Sに、残高を記入してください。

取引② 取引①の後、パソコン30(固定資産に該当)を購入し、代金は現金で支払った。

取引③ 取引①の後、給食用の食材80を購入・使用し、代金は翌月末の支払とした。

取引④ 取引②の後、設備資金借入金100を返済した。なお、流動負債に1年以内返済予定設備資金借入金として計上している残高はありません。

(2) 取引②から取引④によって、純資産及び支払資金はどのように増減するでしょうか。

【解答欄】に記入してください。

なお、増加には「+」を、減少には「△」を付してください。また、増減しない場合には「-」を記入してください。

(3) 取引前B/Sと取引④後B/Sとを比較して、純資産及び支払資金の残高はいくら増減しましたか。【解答欄】に記入してください。

【解答欄】

(1) 取引②から取引④によるB/Sの変動

取引①後B/S		取引②後B/S	
流動資産 2,600	流動負債 300	流動資産 <input type="text"/>	流動負債 300
	固定負債 3,000		固定負債 3,000
固定資産 3,000	純資産 2,300	固定資産 <input type="text"/>	純資産 2,300

取引②

取引③後B/S		取引④後B/S	
流動資産 2,570	流動負債 <input type="text"/>	流動資産 <input type="text"/>	流動負債 380
	固定負債 3,000		固定負債 <input type="text"/>
固定資産 3,030	純資産 <input type="text"/>	固定資産 3,030	純資産 2,220

取引③

取引④

(2) 取引①から取引④による純資産及び支払資金の増減

取引	純資産の増減	支払資金の増減
取引① 介護保険報酬600の発生	+ 600	+ 600
取引② パソコン30(固定資産)の購入		
取引③ 給食材料の掛買い・使用80		
取引④ 設備資金借入金100の返済		
純資産・支払資金の増減合計		

(3) 取引前B/Sと取引④後B/Sとを比較した純資産及び支払資金の増減

純資産の増減	支払資金の増減

練習問題5 期首B/Sと期中取引から期末の計算書類を作成する(1)

次の期首B/S及び期中取引から、当期のP/L及び資金収支計算書並びに期末要約B/Sを作成してください。なお、流動資産及び流動負債はすべて支払資金であると前提してください。

1. 期首B/S

資 産	流動資産	1,500	負 債	流動負債	1,000
	固定資産	3,500		固定負債	3,000
資産合計			負債合計		
			純資産		
5,000			4,000		
			1,000		
負債・純資産合計			5,000		

期首支払資金残高 = 500 (流動資産1,500 - 流動負債1,000)

2. 期中取引 (取引を見ながら(A)欄を記入し、その後(B)欄、(C)欄に記入してください)

取 引	(A) B/Sの資産・負債増減				(B)	(C)
	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債	純資産増減	支払資金増減
① 介護保険報酬500の事業未収金を計上した。	+	—	—	—	+	+
② 職員給料200を現金で支払った。	△	—	—	—	△	△
③ 食材100を掛買・費消し、事業未払金を計上した。	—	—	+	—	△	△
④ 乗用車100を現金で購入した。	△	+	—	—	—	△
⑤ 経常経費に対する寄附80を受けた。	+	—	—	—	+	+
⑥ 設備資金200を借り入れた。	+	—	—	+	—	+
⑦ 備品30がこわれたので廃棄した。	—	△	—	—	△	—
それぞれの増減合計	+	+	+	+	+	+

【解答欄】

1. フローの計算書(期中の純資産と支払資金残高の増減計算)(下線部に金額を記入してください)

摘 要		P/L		資金収支計算書	
① 介護保険事業収益(収入)	純資産増加	_____	_____	支払資金増加	_____
⑤ 経常経費寄附金収益(収入)		_____		_____	
⑥ 設備資金借入金収入		_____		_____	
収益・収入合計		_____		_____	
② 職員給料(支出)	純資産減少	_____	_____	支払資金減少	_____
③ 給食費(支出)		_____		_____	
④ 固定資産取得支出		_____		_____	
⑦ 固定資産売却損・処分損		_____		_____	
費用・支出合計		_____		_____	
当期差額		_____		_____	

2. 期末要約B/S (下線部に金額を記入してください)

資 産	流動資産	_____	負 債	流動負債	_____
	固定資産	_____		固定負債	_____
資産合計			負債合計		
			純資産		
_____			_____		
			負債・純資産合計		
_____			_____		

期末支払資金残高 = _____ (流動資産_____ - 流動負債_____)

練習問題6 5年間の計算書類を作成する！

××01年3月31日(真夜中12時と考えてください)に、
次のような状態で設立された社会福祉法人があります。

【ご注意】この問題は、会計を学び始めてすぐの方が、独学で解答するには難しすぎる問題だと思われます。しかし、P/L(事業活動計算書)の意義を明確に理解するためには、是非ともチャレンジして欲しい問題です。

設立時B/S

建	物	10,000	負	債	
			ゼ	ロ	
			基	本	金
					10,000

設問1 この法人の、××02年3月期以降の計算書類を作成してください。

ただし、××01年4月1日以後の事業収益(=収入)が年間8,000、減価償却費以外の人件費・事業費・事務費等の費用(=支出)が年間7,500で固定されているものとします。

便宜上、建物の耐用年数は5年、残存価額はないものとし、5年後には建物が消滅するものとします。また、××01年4月1日から償却を開始するものとし、減価償却は定額法で行います(備忘価額1円については、考慮する必要はありません)。

【解答欄】

(1) 第1年度

資金収支計算書		P/L		B/S	
事業費等支出 ()	事業収入 ()	事業費等費用 ()	事業収益 ()	現金預金等 ()	負債 ゼロ
		減価償却費 ()		建物 ()	基本 金 10,000
当期 資金収支差額 ()		当期 活動増減差額 (△)		次期繰越 活動増減差額 ()	
当期末 支払資金残高 ()	前期末 支払資金残高 0	次期繰越 活動増減差額 ()	前期繰越 活動増減差額 0	減価償却累計額 ()	

(2) 第2年度

資金収支計算書		P/L		B/S	
事業費等支出 ()	事業収入 ()	事業費等費用 ()	事業収益 ()	現金預金等 ()	負債 ゼロ
		減価償却費 ()		建物 ()	基本 金 ()
当期 資金収支差額 ()		当期 活動増減差額 (△)		次期繰越 活動増減差額 ()	
当期末 支払資金残高 ()	前期末 支払資金残高 ()	次期繰越 活動増減差額 ()	前期繰越 活動増減差額 ()	減価償却累計額 ()	

(3) 第3年度

資金収支計算書

事業費等支出 ()	事業収入 ()
当 期 資金収支差額 ()	
当 期 末 支払資金残高 ()	前 期 末 支払資金残高 ()

P/L

事業費等費用 ()	事業収益 ()
減価償却費 ()	
当 期 活動増減差額 (△)	
次 期 繰 越 活動増減差額 ()	前 期 繰 越 活動増減差額 ()

B/S

現金預金等 ()	負 債 ゼ ロ
建 物 ()	基 本 金 ()
	次 期 繰 越 活動増減差額 ()
減価償却累計額 ()	

(4) 第4年度

資金収支計算書

事業費等支出 ()	事業収入 ()
当 期 資金収支差額 ()	
当 期 末 支払資金残高 ()	前 期 末 支払資金残高 ()

P/L

事業費等費用 ()	事業収益 ()
減価償却費 ()	
当 期 活動増減差額 (△)	
次 期 繰 越 活動増減差額 ()	前 期 繰 越 活動増減差額 ()

B/S

現金預金等 ()	負 債 ゼ ロ
建 物 ()	基 本 金 ()
	次 期 繰 越 活動増減差額 ()
減価償却累計額 ()	

(5) 第5年度

資金収支計算書

事業費等支出 ()	事業収入 ()
当 期 資金収支差額 ()	
当 期 末 支払資金残高 ()	前 期 末 支払資金残高 ()

P/L

事業費等費用 ()	事業収益 ()
減価償却費 ()	
当 期 活動増減差額 (△)	
次 期 繰 越 活動増減差額 ()	前 期 繰 越 活動増減差額 ()

B/S

現金預金等 ()	負 債 ゼ ロ
建 物 ゼ ロ	基 本 金 ()
	次 期 繰 越 活動増減差額 ()
減価償却累計額 ()	

設問2 上記の社会福祉法人において、支出・費用が **設問1** のままであった場合、毎年の収入・収益がいくらであれば、5年後において、施設の再生資金10,000が確保されるでしょうか？

【解答欄】 _____

練習問題7 P/Lの取引と資金収支計算書の取引との異同

次の取引は、P/L(事業活動計算書)・資金収支計算書のいずれのフローの計算書に計上されるでしょうか。二つのフローの計算書のどちらにも計上される取引もあれば、どちらにも計上されない取引もあります。

計上されるフローの計算書に○、計上されないものに×を付けてください。

No	取引の内容	計上されるフローの計算書	
		P/L	資金収支計算書
①	介護保険報酬・保育事業に係る委託費を未収に計上した。		
②	建物等の固定資産を取得して預金を支払った。		
③	建物等の固定資産を除却した。		
④	旅費交通費等の事務費を計上した。		
⑤	当座預金を引き出し、手許現金とした。		
⑥	長期運営資金を借り入れた。		
⑦	減価償却費を計上した。		
⑧	短期の運営資金を返済した。		
⑨	給食費等の事業費を計上した。		
⑩	長期設備資金を返済した。		
⑪	過去に事業未払金に計上していた給食費を支払った。		
⑫	経常経費に充てるための寄附金をいただいた。		
⑬	新しい施設建設のための寄附金をいただいた。		
⑭	事業未収金が普通預金に振り込まれてきた。		
⑮	積立資産を積み立てた。		

以下、少しだけ復習問題を掲げておきます。

時間を掛けただけ理解は深まります。どうか、面倒がらずに解いてみてください。

復習問題 1 文章の空欄に適切な語句を記入する

次の文章の空欄にあてはまる適切な語句を下に示す語群の中から選んで答えてください。

- (1) 貸借対照表は、当該会計年度末現在における全ての資産、(ア) 及び純資産の状態を明瞭に表示するものでなければならない。
- (2) 流動資産は短期的な支払手段となり、他方、流動負債は短期的に支払う必要のあるものなので、「流動資産－流動負債」は、その法人の (イ) を示していると考えることができる。
- (3) 支払資金は、流動資産及び流動負債(一定のものを除く)とされ、(ウ) は、当該流動資産及び流動負債との差額とされている。流動資産のうち支払資金とされるものをテキストでは「Cashとその仲間」と説明し、流動負債のうち支払資金とされるものをテキストでは「Cashのマイナス」と説明している。また、(ウ) の増加及び減少の状況を表示した計算書を (エ) という。
- (4) 社会福祉法人が存続・成長を続けていくためには、全ての資産と全ての負債との差額である (オ) を保持し増やす必要がある。(オ) の増減内容を表示した計算書を (カ) という。
- (5) 支払資金の増加を (キ) といい、純資産の増加を (ク) という。
- (6) 減価償却費は、事業活動計算書に計上 (ケ) が資金収支計算書には計上 (コ) 。

資産	基本財産	負債	純資産	支払資金残高
支払能力		事業活動計算書		資金収支計算書
される	されない	フロー	収益	収入

【解答欄】

ア		カ	
イ		キ	
ウ		ク	
エ		ケ	
オ		コ	

復習問題 2 B/Sを作成して支払資金残高を求める(2)

(1) 次の科目及びその残高から【解答欄】のB/Sを完成してください。

現金預金	230	事業未収金	150
設備資金借入金 (うち1年以内返済予定額)	620 (70)	事業未払金	80
建物(基本財産)	750	立替金	40
建物(その他の固定資産)	210	土地(基本財産)	1,450
器具及び備品	170	基本金	1,780

(2) (1)で作成したB/Sから支払資金の残高を求めてください。

【解答欄】

(1)

B/S

資産の部		負債の部	
流動資産	()	流動負債	()
()	()	()	()
()	()	1年以内返済予定設備資金借入金	()
()	()	固定負債	()
固定資産	()	()	()
基本資産	()	負債の部合計	()
()	()	純資産の部	
()	()	()	()
その他の固定資産	()	国庫補助金等特別積立金	400
()	()	次期繰越活動増減差額	()
()	()	純資産の部合計	()
資産の部合計	()	負債・純資産の部合計	()

ヒント1 設備資金借入金は、長期の負債なので、固定負債に計上します。しかし、うち1年以内に返済が予定されているものが70ありますので固定負債に計上する金額は550だけです。70は？ そう流動負債に計上します。しかし、この70は元々が固定負債で、1年以内に返済が予定されているので流動負債には計上しますが、あくまで固定負債の一部なので支払資金としてはカウントしません。

ただ、このことは入門段階では少し難しいことです。

ヒント2 次期繰越活動増減差額は逆算して求めることになります。

(2) 支払資金残高

復習問題3 期首B/Sと期中取引から期末の計算書類を作成する(2)

下に示す期首要約B/S及び【解答欄】の「(1)期中取引」から、次の問題に答えてください。

- (1) 期中取引が、どの計算書類にどのように影響するのかを【解答欄】(1)の表に記入してください。
- (2) 【解答欄】(2)に示すフローの計算書を作成してください。
- (3) 【解答欄】(3)に示す期末要約B/Sを作成するとともに、支払資金を算定してください。なお、計算過程も示してください。

期首要約B/S

流動資産 2,000	流動負債 200
	固定負債 3,000
固定資産 3,000	純資産 1,800

【解答欄】

- (1) 期中取引(取引を見ながら(A)欄を記入し、その後(B)欄、(C)欄に記入してください)

取 引	(A) B/Sの資産・負債増減				(B)	(C)
	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債	純資産 増 減	支払資金 増 減
① 保育所運営費600を事業未収金に計上した						
② 給食費80を事業未払金に計上した						
③ 水道代40(未払計上していない)を現金で支払った						
④ 車両100を購入し現金で支払った						
⑤ 先月に未払計上していた給食費70を支払った						
⑥ 短期の運営資金100を返済した						
⑦ 長期の運営資金200(固定負債)を返済した						
⑧ 当座預金を100引き出して手元現金とした						
それぞれの増減合計						

(2) フローの計算書(事業活動計算書及び資金収支計算書)

摘 要	P/L	資金収支計算書
① 保育事業収益(収入)	_____	_____
収益・収入合計	_____	_____
② 給食費(支出)	_____	_____
③ 水道光熱費(支出)	_____	_____
④ 固定資産取得支出	—	_____
⑦ 長期運営資金借入金返済支出*	—	_____
費用・支出合計	_____	_____
当期差額	=====	=====

※「長期運営資金借入金返済支出」は分かりやすく記載したもので、正しくは「長期運営資金借入金元金償還支出」です。

(3) 期末要約B/S及びその支払資金

期末要約B/S

流動資産 □	流動負債 □
固定資産 □	固定負債 □
	純資産 □

$$\text{期末支払資金残高} = \square \left(\text{流動資産} \square - \text{流動負債} \square \right)$$

復習問題4 月初B/Sと月中取引から月末の計算書類を作成する

次の月初B/S及び月中取引から、当月のP/L及び資金収支計算書並びに月末要約B/Sを作成してください。なお、流動資産及び流動負債はすべて支払資金であると前提してください。

1. 月初B/S

資 産	流動資産	2,300	負 債	流動負債	1,000
	固定資産	3,200		固定負債	1,500
				負債合計	2,500
				純 資 産	3,000
資産合計			5,500	負債・純資産合計	5,500

月初支払資金残高 = 1,300 (流動資産2,300 - 流動負債1,000)

2. 月中取引 (取引を見ながら(A)(B)(C)欄に増減額を記入して下さい。なお、増加には+を、減少には△をつけ、増減のないものは-を記入して下さい)

取 引	(A) B/Sの資産・負債増減				(B)	(C)
	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債	純資産増減	支払資金増減
① 今月に発生した保育事業に係る給付費600を計上した。						
② 職員給料300を現金で支払った。						
③ 食材200を掛買いして使用した。						
④ 購入代金を翌月に支払う契約で、備品70(固定資産)を購入した。						
⑤ 経常経費に対する寄附50を受けた。						
⑥ 設備資金200を借り入れた。						
⑦ 減価償却費50を計上した。						
⑧ 受取利息10が預金に入金された。						
それぞれの増減合計						

【解答欄】

1. フローの計算書(下線部に金額を記入して、フローの計算書をそれぞれ完成させて下さい)

摘 要	P/L	資金収支計算書
① 保育事業収益(収入)	_____	_____
⑤ 経常経費寄附金収益(収入)	_____	_____
⑧ 受取利息配当金収益(収入)	_____	_____
⑥ 設備資金借入金収入	—	_____
収益・収入合計	_____	_____
② 職員給料(支出)	_____	_____
③ 給食費(支出)	_____	_____
⑦ 減価償却費	_____	—
④ 固定資産取得支出	—	_____
費用・支出合計	_____	_____
当月活動増減(資金収支)差額	_____	_____

2. 月末要約B/S(下線部に金額を記入して、月末B/Sを完成させて下さい)

資 産	流動資産	_____	負 債	流動負債	_____
	固定資産	_____		固定負債	_____
				負債合計	_____
				純 資 産	_____
資産合計			_____	負債・純資産合計	_____

月末支払資金残高 = _____ (流動資産 _____ - 流動負債 _____)